

R 2 年度ニホンザル管理に係る新技術等の取組について（かながわ鳥獣被害対策支援センター）

	事業名	期間	場所	対象群	内容	実施状況
1	令和2年度地域ぐるみ対策の立ち上げ支援「追払い活動を中心としたサルの被害軽減の推進」	R2. 4. 14 ～ R3. 3. 17	山北町 清水・ 三保地 区	丹沢湖	直売農家の多い地域でサルによる被害が恒常化し市の追払い活動が行われているが、生活被害も拡大しつつある。電波発信器等の情報を使い、地域で対応ができるよう支援する。	谷ヶ地区をモデルとして6月に集落環境調査を実施し自治会役員と対策の進め方を協議した。9月に勉強会を実施、11月からサルの捕獲ワナの地域見回りが始まり、併せて管理講習を11月と1月に実施した。3月に電波発信器による位置把握方法や追い払い研修を行う予定。
2	令和2年度地域ぐるみ対策の立ち上げ支援「既に行われている対策の改善と地域全体への普及」	R2. 5. 22 ～R3. 末	相模原 市緑区 澤井・ 佐野川	(K 1、 K 3、 K 4)	直売や芋掘り等の消費者交流型の農業生産が盛んな地域で、捕獲を中心とした対策で被害が軽減していない。管理不足の山林や収穫残さの放置、既存電気柵の改善等を地域全体に普及し被害の軽減を図る。	佐野川下岩地区をモデルとして5月に集落環境調査を実施し、既に設置されている電気柵の改善方法と併せて周知した。モデル地区での実施概要は、12月に開催された吉野・沢井・佐野川地区鳥獣害対策連絡協議会で情報共有している。
3	令和2年度ニホンザル生息状況調査業務委託	R2. 6. 5～ R3. 3. 25	県西、 県央、 湘南	全群	県内の群れのモニタリングのため、発信器首輪を使い、群れの構成、行動域、食性等について調査・解析を行う。また、そのために必要な首輪の更新作業を行う。	群れ管理への活用のため、各群れの調査・解析結果を市町村に情報提供。また、今年度更新予定10群のうち4群に首輪を装着完了。
4	市街地に隣接した農林業地域におけるサルの出没状況調査に係る業務委託	R2. 12. 8 ～ R3. 3. 25	湯河原町	T 1	市街地に出没し悪質な行動をとるサルの対策のため、出没や被害情報及びテレメトリー調査から原因と傾向を把握し、地域が行う事前予測や対策等の基礎資料とする。	「年」「季節」「月」「日」ごとで分析し生態的特徴も加味し考察。追い払いの効果等も検討。時期が絞られるなら追い払い強化等も検討。
5	ニホンザルの複数頭捕獲の試行業務委託	R2. 11. 13 ～ R3. 3. 26	相模原 市内 1 カ所	(K 3)	設置撤去が容易な組立式の箱わな（縦2m×横3m×高さ2m）に無線式のトリガー作動装置をつけ、目視により遠隔でわなを作動させ、従来のわなへの警戒心が高い個体等の複数頭捕獲を試行する。	緑区澤井でK 3対象として実施。2月2日に1頭、2月4日に2頭を捕獲。目視により作動させるため、特定の個体を選んでの捕獲や、複数頭が入ったタイミングでの捕獲が可能。設置撤去も容易。他の群での活用を検討中。
6	ニホンザル加害個体緊急捕獲業務委託	R3. 1. 13 ～ R3. 3. 19	湯河原町、 真鶴町、厚 木市、伊勢 原市、清川 村	T 1、 日向、 鐘ヶ嶽	複数市町村での出没、加害が問題になっており、地域個体群の適正な管理上障害となっている早急な対応が必要個体について、銃器（麻醉銃を含む）による捕獲を行う。	T1群を対象として、銃器（麻醉銃を含む）による捕獲候補地を湯河原町内で選定し、1月下旬から餌付け作業を開始した。2月17日に2頭の加害個体を銃器で捕獲した。
7	ニホンザルの群れの捕獲完了に向けた新たな捕獲手法の試行	R2. 5. 29 ～12. 10	小田原市 板橋、箱 根町役場	S	「サル用餌付け装置（自家製）」を使ったくくり罠での捕獲の試行。	筒状の餌付け装置に手を入れる動作が確認された。12月籠型くくり罠「御用でござる」により捕獲が完了。
8	カンキツ園におけるニホンザルの効果的な防護方法についての検討	R2. 10. 15 ～R3. 3. 5	小田原 市石橋	H	カンキツに食害等を及ぼすニホンザルの行動を抑制し、農業者が導入しやすい効果的な防護技術について検討し、地域ぐるみの鳥獣被害対策の推進における類似課題への対応に資する。	ネットと電気柵の複合柵で外周を囲うことでサル被害には合わない。設置作業が難しい場合や鳥被害があるところは樹体被覆も有望。

除去を予定しているニホンザルの群れの捕獲完了に向けた新たな捕獲手法の試行

1 目的

小田原市、箱根町内等を行動領域とするS群（西湘地域個体群）は、第4次ニホンザル管理計画において平成29年度から全頭除去を前提に捕獲をすすめているが、首輪個体が残存したまま完結しておらず、捕獲罠に対する学習や加害性を有した状況である。

そこで、新たな捕獲手法を検討し、類似事例での対策に資する。

2 実施主体

県環境農政局緑政部自然環境保全課

3 協力者（捕獲、処分経費負担）

小田原市環境部環境保護課、箱根町環境整備部環境課

4 実施場所及び期間

(1) 小田原市板橋（大型囲い罠周辺） 令和2年5月29日～9月4日

(2) 箱根町役場周辺（庁舎裏非常階段） 令和2年10月6日～12月9日

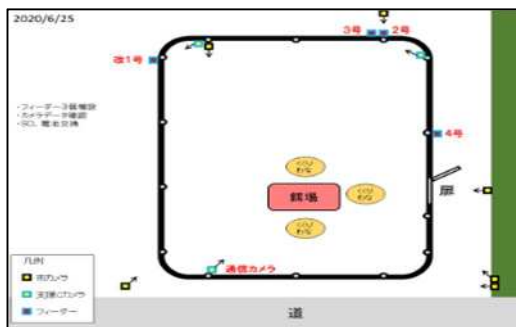


図2 設置場所（左：小田原市、右：箱根町）

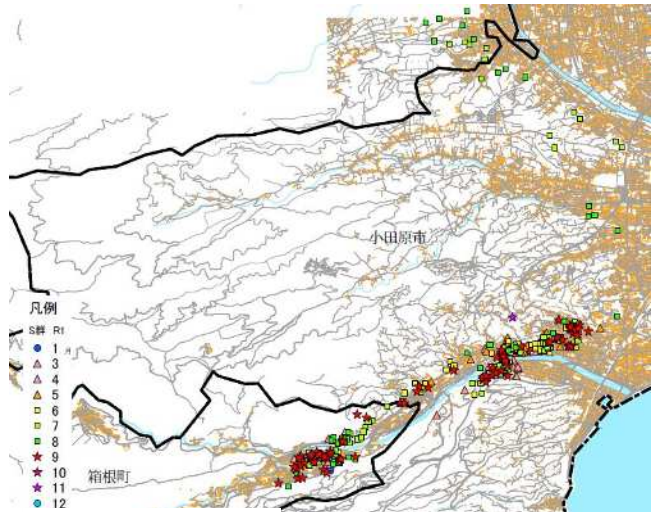


図1 S群の行動域

5 内容

(1) 「サル用餌付け装置」を使ったくくり罠での捕獲の試行

(2) 方法

装置の設置場所及び高さについて自動撮影カメラ等により経過観察した後、装置を固定し、付近にオープンロックのくくり罠を設置して慣化させ捕獲の試行を行う。



図3 餌付け装置

6 結果

・小田原市板橋では、6月2～13日にかけて、複数回、S群首輪個体とワカモノメス個体(S群でない)が餌付け装置から落花生を獲っている姿が確認された。サル以外では、タヌキとカラスが落花生を獲る行動があった。

・10月6日から箱根町役場で設置位置を検討するため、非常階段踊り場に餌をばら撒いて到来状況を確認（10月27日）した。

・12月9日小田原市板橋にある県警第二交通機動隊小田原分駐所付近で、S群首輪個体が、手を入れて餌をとる行動で捕獲できる箱型のくくり罠で捕獲された。



図4 餌付け装置のS群(小田原市)



図5 非常階段のS群(箱根町)

「カンキツ園におけるニホンザルの効果的な防護方法についての検討」の実施について

1 目的

カンキツに食害等を及ぼすニホンザルの行動を抑制し、農業者が導入しやすい効果的な防護技術について検討し、地域ぐるみの鳥獣被害対策の推進における類似課題への対応に資する。

2 実施主体 県自然環境保全課

3 協力者（機関）

- (1) 農業者 鈴木裕章氏、高橋寛一氏（小田原市鳥獣被害対策防止対策協議会石橋地区）
- (2) 関係機関 小田原市経済部農政課、環境部環境保護課
JAかながわ西湘組織相談部組織広報課
- (3) 県関係 農業技術センター足柄地区事務所
県西地域県政総合センター環境部環境調整課

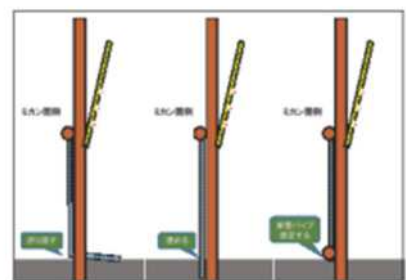
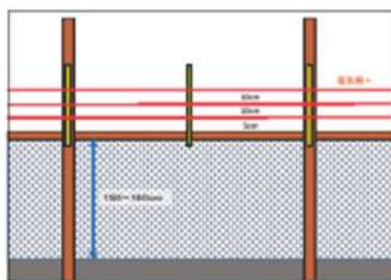
4 実施場所 小田原市石橋 鈴木裕章氏カンキツ園

5 実施期日

令和2年10月15日
～令和3年3月5日

6 実施内容

ネット（高さ道路面
2 m、別園隣接面 4 m）
及び電気防護柵（下か
ら 5, 10, 10cm 間隔 3 段）
の複合柵の設置 外周
約 60m（2.5 a・18 樹）



* 比較対照（右）：**樹体被覆**「ネットでの‘湘南ゴールド’樹体全体の被覆によるニホンザルの食害防止効果の検討」県農業技術センター設置



7 実施結果

(1) 被害状況

近隣への到来状況が発信器や目視で確認されているが、センサーカメラで園内への侵入状況を確認し、サルの侵入はなかった（2/17時点）。

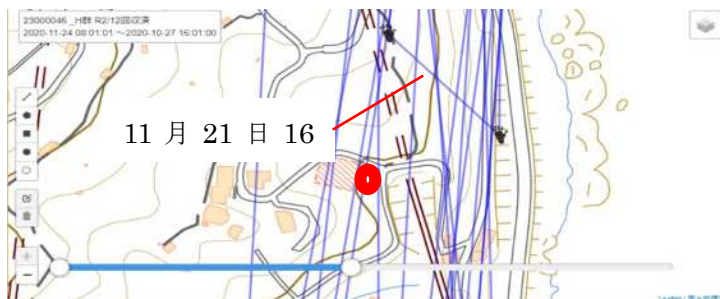


図1 H群到来状況（アニマルマップ）



図2 サルの手が撮影された画像（1月22日）

(2) 設置作業時間

既存の防風ネット支柱を活用したため、実際の作業時間ではないが、2人作業で6日間、電気柵設置作業以降のみで2.5日間要し、高所作業等も伴った。

期日	作業内容	作業時間×人数	2人作業計算	(参考) 樹体被覆
10月15日	既存ネット支柱修繕	4時間30分×7名	15時間45分	カーテンレール等で巾着加工したサシネットを二人作業で被覆、裾をまとめる
10月16日	漁網設置	3時間30分×9名	15時間45分	
	電気柵支柱設置	3時間×5名	7時間30分	
10月27日	配線、稼働確認	3時間×7名	10時間30分	
計		—	49時間30分 電気柵以降18時間	4時間 (2人作業18樹)

(3) 設置経費（仮試算、税込、支柱数19本、耐用年数を考慮しない）

支柱 径48.6mm4m単管	@1,500×56本	84千円
クランプ	@178×38個	6.8
ジョイント	@329×15個	6
防風ネット 幅2m×50m巻	@3,980×2本	8
電気柵ワイヤー (60×3≒200m)	} セットで45	
電気柵用支柱24本 (段差補含む)		
太陽光発電パワーユニット		
結束バンド長さ25cm	100本入り@435×2袋	0.9
計		150.7千円(参考 18樹体被覆225千円)

8 考察

・既存の防風ネットやイノシシ用の防護柵に追加設置する場合なら5~6万円の経費追加でサルからの被害を回避できるが、小田原市内のミカン園の多くは斜面上に段々にあるため、隣接園との境に高設したい場合は、作業時間及び経費が余計にかかる。

・前述も踏まえ、鳥類被害の懸念される場所では、より軽作業の「樹体被覆」を選択肢とするといよい。

作業内容



- ① 既存の防風ネットを撤去
- ② 朽ちた単管パイプの除去
- ③ 新しい単管パイプの打ち込み
- ④ 新しい防風ネット設置
- ⑤ 横支柱設置



- ⑥ 防風ネット設置
- ⑦ 漁網ネット設置
- ⑧ 漁網ネット繋ぎ合わせ
- ⑨ 漁網ネットの地際固定
(古い単管パイプ活用)
- ⑩ 電気柵 本機設置場所調整



- ⑪ 電気柵設置
- ⑫ 電線間隔確認
- ⑬ 電気を流し、漏電カ所を補修

* 比較対照 (右): 樹体被覆

